

# 「食品アクセス確保のための地域協議会 (食品アクセス総合対策事業)」における取組み “つながり”と“しあわせ”を意識した「食品アクセス確保」

令和7年度 ひょうごフードサポートネット連携体制推進会議

社会福祉法人 養父市社会福祉協議会



## 養父市の概要



養父市は、平成16年4月1日、  
兵庫県養父郡の八鹿町・養父町・大屋  
町および関宮町の4町が合併して誕生  
しました。

兵庫県北部の但馬地域の中央に位置  
し、面積は422.91km<sup>2</sup>で兵庫県の5%  
但馬地域の19.8%を占めています。

人口	20, 633人
世帯数	8, 997世帯
高齢化率	40. 91%
中学校区数	4
小学校区数	9
行政区数	162

75歳以上人口 4, 993人  
(後期高齢化率 24.20%)

一人暮らし 高齢者 2,196人  
高齢夫婦のみ世帯 1,414世帯

↑  
人口は減少しているが、  
独居高齢者、高齢夫婦世帯は、増加している。

令和7年8月31日現在

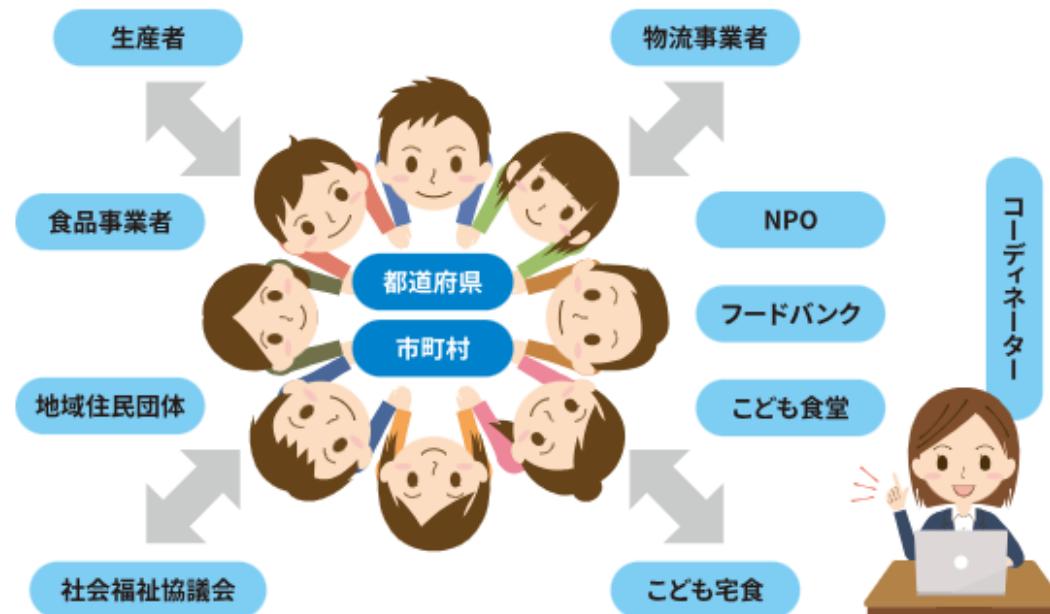
# 食品アクセス総合対策事業とは

近年、人口減少と高齢化の進行、公共交通サービスの縮小、地域経済の衰退などにより買い物に困難さを抱える方が増えています。

また、経済的困窮の広がりにより、日々の食事に困る世帯もあります。

養父市社会福祉協議会では、令和6年10月1日より、農林水産省の「食品アクセス緊急対策事業」の補助を受け、買物困難者、経済的に困窮している方への円滑な食品アクセスの確保について対策を考えていきます。

## 事業の内容



地域協議会イメージ

### 1 協議会の設置

養父市全エリアを対象に「食品アクセス確保のための地域協議会」を設置

### 2 関係者間の調整役の配置

上記協議会の運営に、職員1名をコーディネーターとして配置

### 3 地域における食品アクセスの現状・課題の調査

経済的理由により食品にアクセスできない方の実情等に関する調査

食品事業者などの食品ロス状況等に関する調査

## 3年間の目指す姿・到達目標

- ・地域協議会の立ち上げと、食品アクセスに関する調査を実施
- ・住民へ本事業の周知
- ・地域協議会を核として、新たな買い物の支援、移動支援の仕組みづくり
- ・生活困窮世帯への伴走支援確立



- ・部会運営等による 地域協議会の活性化
- ・食品アクセスに関する地域ニーズの明確化

現在までは、**調査と協議**による、食に関する「**地域ニーズ明確化**」と「**関係機関・住民での課題共有**」に注力  
(※今後、具体的な取組みをすすめていく)

# 第1回 食品アクセス確保のための地域協議会（令和7年2月21日）



委員には

**地域住民関係者**（区長、民生委員・児童委員、地域自治組織関係者）

**企業団体関係者**（移動販売業者、生活協同組合コープこうべ、たじま農業協同組合、商工会）

**学識経験者**（子育て関係、医療福祉関係NPO）

**行政関係者**（福祉、社会的処方、子育て、公共交通関係各部署）

**15名が就任**

オブザーバーとして、**近畿農政局**の職員4名も参加

# 第1回 食品アクセス確保のための地域協議会（令和7年2月21日）



後半は、  
**買い物困難者（物理的アクセス）部会**  
**経済的困難者（経済的アクセス）部会**  
に分かれグループワーク形式で行う  
  
「現状と課題」「今後、この協議会で議論・研究を深めたいこと」をテーマに協議

# グループワークで出された意見

## 買い物困難者（物理的アクセス）部会

- ・同居家族がいても、買い物に行けない（家族が買ってきてくれるが、自分では選べない）
- ・免許返納後の移動の問題
- ・買った物を自宅まで運ぶことが困難
- ・移動＝自家用車（自分で運転・家族に乗せてもらう）という考えが強く、タクシーやバスに乗る文化が定着していない
- ・ネット販売へアクセスしやすい環境づくりが必要
- ・やぶくる（養父市版ライドシェア）デマンド交通の実証実験を行っているが、利用方法が周知されていない
- ・自治協議会を会場にした、ふれあいカフェに移動販売が来ている。  
来場者は買い物とともに人との交流を楽しみにしている



## グループワークで出された意見

「食品の確保ができる」がゴールではなく、その先にある  
「（食品アクセスを通じた）ひとりひとりの幸せ」がゴールでは。

### 経済的困難者（経済的アクセス）部会

- ・地域に経済的困難者がいても、個人情報の問題や、声をあげにくくなど、その実情の把握は難しい
- ・児童相談では虐待案件も増加。その背景には生活困窮の問題が多い
- ・ヤングケアラーが1クラスに一人の統計
- ・農業従事者には人手不足問題がある。  
経済的困難者との期間就労のマッチングができないか
- ・子ども食堂支援のきっかけはコミュニティの希薄化  
子どもの安心安全とともに、地域での早期発見、  
手助けへつなげたい
- ・農業を通じて、心も体も健康に。  
人との関わりを持ってもらう取組みをすすめたい



# 調査活動 ①

## 物理的アクセス関連

### □ 一人暮らし高齢者への買い物状況に関する調査

地域	実施時期	調査対象	調査数	食品調達困難回答数	食品調達困難割合
八鹿地域	令和7年5月	80歳以上	207	18	8.7%
養父地域	令和7年3月	65歳以上要見守り	158	22	13.9%
大屋地域	令和7年7月	75歳以上	130	12	9.2%
関宮地域	令和6年12月	65歳以上 抽出	161	10	6.2%

ひとり暮らし高齢者の約1割が食品調達に困難感あり

### □ 市内山間部の高齢化進行地域（大屋町明延区）住民への、買い物状況に関するヒアリング調査

回答16人（人口44人）中、14%困難感あり  
(無人購買部設置へ向けた調査)

計656世帯への訪問聞き取り調査を実施  
(民生委員・児童委員、ボランティアの協力)



# 調査活動 ①

## 物理的アクセス関連

### ☑ 一人暮らし高齢者への 買い物状況に関する調査 (調査票)

「自分では、ほとんど買い物をしない」という人の割合が、34%（222人）

#### 令和6年度 関宮地域 ひとり暮らし高齢者アンケート

(記入日：令和 年 月 日)

対象者 地区名： お名前：

1 あなたの年代を教えてください。 (〇は一つ)  
① 60代 ( ) ② 70代 ( ) ③ 80代 ( ) ④ 90代以上 ( )

2 家族・親族はどちらにお住まいですか (当ではまるもの全てに〇)  
① 同じ区内に居住 ( ) ② 市内に居住 ( )  
③ 但馬内（養父市以外）に居住 ( ) ④ 兵庫県内（但馬以外）に居住 ( )  
⑤ その他 ( )

3 体調はいかがですか？ (〇は一つ)  
① 良い ( ) ② 普通 ( ) ③ 以前より悪くなった ( )

(例)：食欲がない 足腰が痛い など

4 1週間にどの程度外出していますか？ (〇は一つ)  
① ほぼ毎日 ( ) ② 4日以上 ( ) ③ 2日以上 ( )  
④ ほとんど外出をしない ( )

(例)：受診 ラジオ体操 散歩 煙仕事 など

5 1週間に買い物に行く頻度はどのくらいですか (〇は一つ)  
① ほぼ毎日 ( ) ② 4日以上 ( ) ③ 2日以上 ( )  
④ 自分では、ほとんど買い物をしない ( )

6 買い物に行く先はどこが多いですか。 (当ではまるもの全てに〇)  
① 移動販売 ( ) ②（移動販売以外の）地区内・近隣にある店舗 ( )  
③ 関宮町内（地区外）の店舗 ( ) ④ 市内（関宮以外）の店舗 ( )  
⑤ 市外の店舗 ( )

裏面に続きます

7 買い物に行く際の交通手段は何ですか。 (当ではまるもの全てに〇)  
① 徒歩・自転車 ( ) ②自家用車・単車 ( ) ③バス ( )  
④ やぶくる ( ) ⑤タクシー ( )  
⑥その他 ( )

8 買い物に行く以外に、食品を調達することがありますか (当ではまるもの全てに〇)  
① 家族に買ってもららう ( ) ② 近所の人に買ってもららう ( )  
③ ヘルパーに買ってもららう ( ) ④ インターネットで購入 ( )  
⑤ コープの個配 ( ) ⑥ 商店等に届けてもららう ( )  
⑦ その他 ( )

9 食品の調達方法全般についてお尋ねします。食べ物の調達について困りごとはありますか。  
① ある・困っている ( ) (〇は一つ)  
② 時々、困ることがある ( ) ③ 特に困りごとはない ( )  
□ (上記①、②と答えられた方) 具体的にどのような事に困っていますか  
.....  
.....  
.....

10 買い物以外に、現在、何か困りごとがありますか。 (当ではまるもの全てに〇)  
① 移動手段 ( ) ②ゴミ出し分別 ( ) ③調理 ( ) ④掃除・洗濯 ( )  
⑤ 経済的なこと ( ) ⑥その他 ( )

11 生活上で、将来、不安に感じることはありますか (当ではまるもの全てに〇)  
① 移動手段 ( ) ②ゴミ出し分別 ( ) ③調理 ( ) ④掃除・洗濯 ( )  
⑤ 経済的なこと ( ) ⑥買い物 ( ) ⑦その他 ( )

12 何か、相談したいことがありますか?  
.....  
.....  
.....

ご協力ありがとうございました。

## 調査活動 ②

### 経済的アクセス関連

- ✓ 生活福祉資金借受世帯・フードバンク利用世帯への実態調査  
(ほっとかへんネットワーカーによる調査)

新型コロナウイルス特例貸付借受人（54世帯）  
令和6年度フードバンク利用者（22世帯）へ  
就業状況、経済状況、困りごとや不安なことを調査  
→郵送 or 2次元コードにより回答していただく

特例貸付借入者では、約半数が経済状況の改善があったとの回答  
（食品アクセスに困難感を抱えている方の割合は2割） （回答率 37%）

反面、フードバンク利用者は、状況の改善は1割未満  
（食品アクセスに困難感を抱えている方の割合は9割以上） （回答率59%）



回答者で希望する方には  
食品等詰め合わせパック  
「養父市どうぞ便」を提供  
～食でつながる地域の絆～

## 調査活動 ③

住民全体への啓発、ささえあいの地域づくりをめざして

✓ 養父市内の全行政区の自治会関係者を対象に

「地域の買い物問題について考えよう」ワークショップを実施（地区福祉委員会でのグループワーク）

※参加者：区長、民生委員・児童委員、民生児童協力委員、福祉委員ほか 145行政区から686人が参加



## 調査活動 ③

### 住民全体への啓発、ささえあいの地域づくりをめざして

#### ✓ 「地域の買い物問題について考えよう」ワークシート

問：あなたの区に“買い物”に困っている人はいますか？

- いる 60行政区 (41.4%)
- いない 63行政区 (43.4%)
- わからない 14行政区 ( 9.7%)
- その他 8行政区 ( 5.5%) ※今はなんとかできる、将来困る 等

「いない」と回答した区にも…

- 本当にないでしょうか？？
- 今はいないけど、将来はわからない
- 徒歩で店舗まで買い物に行っているけど、夏場などは大変そう
- 買い物はできているけど、認知症の症状が出てきているよう…

なんとなく「困っている」を、→ 区内の関係者で意識化し、共有

令和6年度 第2回地区（校区）福祉委員会 グループワークシート  
「地域の“買い物問題”について考えよう」

実施日：令和7年3月5日

行政区名	〇〇〇〇 区
------	--------

#### 1 買い物に関する地域の状況について

※ひとり暮らし高齢者 友愛訪問によるアンケート調査より

地域	実施時期	調査対象	調査数	買い物困難回答数	買い物困難割合
八鹿地域	令和6年5月	80歳以上	180	18	10.0%
養父地域	令和6年3月	65歳以上	159	17	10.7%
大屋地域	令和6年7月	75歳以上	140	22	15.7%
関宮地域	令和6年12月	65歳以上	159	10	6.2%

買い物困難には、近隣に店舗がない、運転免許を返納した、重いものを持てない、経済的に困難…など様々な要因があります。

#### 2 あなたの区に“買い物”に困っている人はいますか？

- ①. いる      2. いない      3. わからない      4. その他 ( )

個人情報・プライバシーに配慮しながら話し合ってください。

対象者 性別	対象者 年代	隣保	状況について
女性（記入例）	80 歳代	1組	一人暮らし。免許は返納し、移動はバスかタクシー。子どももあまり帰ってこず、バスで受診した際に買い物をしている。
女性	80 歳代	5組	一人暮らし。免許は返納し、移動はバスかタクシー。子どももあまり帰ってこず、バスで受診した際に買い物をしている。
男性 女性	90 歳代 80 歳代	2組	二人暮らし。免許返納。
	歳代		

#### 3 買い物困難対策として、取り組めること、あればいいなと思うことを話し合ってください

対策名	実施主体	内容・対象者 等
移動販売車が来たときに声をかける	近隣住民	区民全員。
買い物を頼まれたら買ってきてあげる	近隣住民	買い物困難者。

※本グループワークは「食品アクセス緊急対策事業（農林水産省）」の地域現況調査としても実施しています

# 調査活動 ③

## 住民全体への啓発、ささえあいの地域づくりをめざして

### ✓ 「地域の買い物問題について考えよう」ワークシート

問：買い物困難対策として、取り組めること、あればいいな  
と思うことを話し合ってください

- 普段からの声掛けが大切
- 近所の人があつついでに買ってくる（買物代行の助け合い）
- 区で買い物ツアーを企画する
- 移動販売車に立ち寄ってもらうよう頼もう
- コープこうべの個配の利用方法講習会
- 高齢者優待乗車券、バスの乗り方を伝える
- ネット通販の活用
- 自治協に、農産物直売所、ミニミニコンビニを開設
- （行政に）巡回バスを運行して欲しい

要望のほか、「自分たちでできること」についてたくさんのアイディアが。  
そして一部は実際に形に…。多くのたすけあいが行われている事も。

令和6年度 第2回地区（校区）福祉委員会 グループワークシート  
「地域の“買い物問題”について考えよう」

実施日：令和7年3月5日

行政区名	○○○○ 区
------	--------

#### 1 買い物に関する地域の状況について

※ひとり暮らし高齢者 友愛訪問によるアンケート調査より

地域	実施時期	調査対象	調査数	買い物困難回答数	買い物困難割合
八鹿地域	令和6年5月	80歳以上	180	18	10.0%
養父地域	令和6年3月	65歳以上	159	17	10.7%
大屋地域	令和6年7月	75歳以上	140	22	15.7%
関宮地域	令和6年12月	65歳以上	159	10	6.2%

買い物困難には、近隣に店舗がない、運転免許を返納した、重いものを持てない、経済的に困難…など様々な要因があります。

#### 2 あなたの区に“買い物”に困っている人はいますか？

→ ①. いる ②. いない ③. わからない ④. その他 ( )

個人情報・プライバシーに配慮しながら話し合ってください。

対象者 性別	対象者 年代	隣保	状況について
女性（記入例）	80 歳代	1組	一人暮らし。免許は返納し、移動はバスかタクシー。子どももあまり帰ってこず、バスで受診した際に買い物をしている。
女性	80 歳代	5組	一人暮らし。免許は返納し、移動はバスかタクシー。子どももあまり帰ってこず、バスで受診した際に買い物をしている。
男性 女性	90 歳代 80 歳代	2組	二人暮らし。免許返納。
	歳代		

#### 3 買い物困難対策として、取り組めること、あればいいなと思うことを話し合ってください

対策名	実施主体	内容・対象者 等
移動販売車が来たとき に声をかける	近隣住民	区民全員。
買い物を頼まれたら買 ってきてあげる	近隣住民	買い物困難者。

※本グループワークは「食品アクセス緊急対策事業（農林水産省）」の地域現況調査としても実施しています

# 調査活動 ④

## 移動販売のルートに同行して取材



週1回だが、店舗のない山間地域等の  
重要なインフラとなっている  
移動販売の場が、ちょっとした集い場の役割も

しかし、（当然だが…）一定水準の需要がないと、  
ルートには組み込みづらい、という面あり

# 第2回 食品アクセス確保のための地域協議会（令和7年9月17日）



各種、調査報告のあと、部会に分かれて  
「新たな活動」について協議

## 買い物困難者（物理的アクセス）部会

- ・買い物支援情報を一覧にまとめる（行政）
- ・公共交通サービスの検討（行政）
- ・「バスの乗り方教室」（社協）
- ・ネットの買い物代行サービス（自治協）
- ・農産物の地域内シェア、余った野菜の配付
- ・買い物行きたい同盟（グループ化）
- ・地区の場に参加したくなる仕掛けづくり

## 経済的困難者（経済的アクセス）部会

- ・こども食堂の拡充（全小学校区エリアで）
- ・宅食サービスの展開を
- ・フードバンクの収集場所の拡充
- ・フードバンク事業の周知、利用方法の改善
- ・農業体験、つくる喜び
- ・相談の心理的ハードルを下げる工夫が必要
- ・ふれあい食堂で地域のつながりを

# 第3回 食品アクセス確保のための地域協議会（令和7年12月23日）

安心して暮らせる地域づくり  
～移動販売で取り組む買い物支援事業～

社会福祉法人  
長浜市社会福祉協議会

1

長浜市社会福祉協議会の職員を  
招き、

・**移動販売を、さまざまな生活支  
援、健康づくり、交流の場づくりと  
リンクさせる取り組み**

・**フードバンクを活用した相談支援  
について紹介してもらった**



長浜市は、滋賀県北部にある歴史と自然が調和したまち。豊臣秀吉ゆかりの長浜城や黒壁スクエアなど、観光と文化が魅力。琵琶湖と山々に囲まれ、四季を感じる暮らしが楽しめます。

2

その後はもちろん、  
部会でグループワーク実施  
「できることを話し合う」

食品アクセス

フードバンク活動と個別支援の取組み

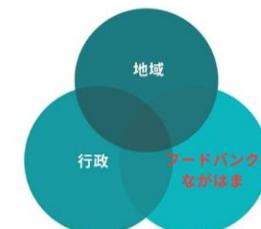
社会福祉法人  
長浜市社会福祉協議会

社協とフードバンク活動の連携

Mission

連携した支援体制の構築  
行政 × 地域 × フードバンクながはま

食から始める支援は地域の繋がりの中でしか生まれません。  
各セクションの得意を生かしながら支援をしていきます。



▶ 「フードバンクながはま」が行政、地域と連携できる支援  
例) 連携会議の開催、社協名義の活用

# 住民への本事業の周知①

## 「食品アクセスプロジェクトだより」の発行

**食品アクセスプロジェクト  
だより vol.1**  
発行者／養父市社会福祉協議会  
発行日／令和7年4月15日

**第1回 食品アクセス確保のための地域協議会** /令和7年2月21日

**“つながり”と“しあわせ”を意識した「食品アクセス確保」**

養父市では、地域の過疎化や公共交通手段の不足、高齢者の免許証紛失、個人商店の閉業等により、日常の買い物に困難を抱える人が増えています。また、経済成長が停滞するなか、物価高も重なり、経済的に困窮している世帯も増加しています。

養父市社会福祉協議会では、買物困難者、経済的に困窮している人の円滑な食品アクセスの確保を図るために、「令和6年度食品アクセス緊急対策事業（農林水産省）」に応募しました。

**会長あいさつ**

食品アクセス確保のための地域協議会  
会長 岸本 計二  
高齢化や過疎化が進行するなど、地理的要因や経済的要因で十分な食料を入手出来ない買物困難者が増えています。  
誰もが健康で豊かな食生活が送れるよう、多様な食料の提供体制、および食品アクセス確保に関する地域の課題を調査し、取り組みを推進する体制を強固にしたいと考えています。  
皆様に理解と关心を持っていただき、ご協力願いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

▲第1回食品アクセス確保のための地域協議会の様子

**委員名簿**  
(役職は令和6年度時点・敬称略)

氏名	担当
会長 岸本 計二	養父市民生委員児童委員協議会連合会 会長
副会長 河内 友久	南谷自治協議会 事務局長
木下 計介	養父市区長会 八鹿区長会 会長
池田 一成	大谷校区協議会 事務局長
高島 正博	養父校区自治協議会 会長 にこにこ食っ子食堂
小柴 勝彦	養父市移動販売活性化協議会 会長 (有)フードショップマルコ
根本 久幸	生活協同組合コープこうべ 地域担当チーフ
長谷川 直大	たじま農業協同組合 八鹿支店 支店長
日下部 武志	養父市商工会 事務局長
衣川 益子	NPO法人りともいと 理事長
糸井 恒輔	NPO法人恒太会 事務局長
小谷 康和	養父市健康福祉部 社会福祉課 課長
森 知美	養父市健康福祉部 社会的処方推進課 地域包括支援センター 保健師
沖田 隆典	養父市子ども・夢・えがお部 子育て応援課 課長
江本 賀治	養父市まち整備部 土地利用未来課 課長

## 市内全世帯へ配付（9,000部）

**食品アクセスプロジェクト  
だより vol.2**  
養父市で進む食品支援の新しい取組み  
発行者／養父市社会福祉協議会  
発行日／令和7年12月15日

**ご協力ありがとうございました！**

**やっ♪一食の体験フェスタに  
フードバンク啓発ブースを出展しました！**

令和7年10月18日、養父地域局駐車場にて開催された「やっ♪一食の体験フェスタ」(主催:南但青年会議所)に、フードバンクの啓発ブースを出展しました。

本イベントは、食の楽しさや食文化を体験できる場として企画され、子ども食堂の開拓や地域福祉の理解促進を目的に、多くの団体が協力して開催されました。

イベントでは、食品支援活動「フードバンク」「フードドライブ」について理解を深めていただくために、啓発ブースを設置しました。食品ロスの現状と、みなさまから寄附された食品が、支援を必要とする人や、子ども食堂に役立てる流れを紹介するパネル展示を行いました。

また、「フードドライブにご協力ください」と記した啓発カードを配布し、継続的な参加を呼びかけました。

当日は、12名の方から、合計61品目、111点の食品が寄附されました。来場者からは「初めて知った」「自分にもできる支援だと感じた」という声が寄せられ、地域のみなさまの関心と協力の広がりを実感することができました。

会場では、赤い羽根共同募金のマスコットキャラクター「あかはねちゃん」も登場し、募金への協力を呼びかけました。

**「フードバンク」「フードドライブ」ってなに？** 家に余っている食べ物や、お店で使わない食品を集めて、困っている人へ届ける活動です。

**あなたの寄附が、誰かの食卓をささえます！**

**あなたの食品、未来の笑顔へ**

**フードドライブ**

食品ロスを減らし、地域の困っている方、こども食堂などに食を届ける活動です。

未開封で包装や外装が破損していないもの  
賞味期限が2ヶ月以上あるもの  
生鮮食品以外のもの

養父市社会福祉協議会 各支部まで!!

## 住民への本事業の周知②

### ホームページの開設



近年、人口減少と高齢化の進行、公共交通サービスの縮小、地域経済の衰退などにより買い物に困難さを抱える方が増えています。  
また、経済的困難の広がりにより、日々の食事に困る世帯もあります。

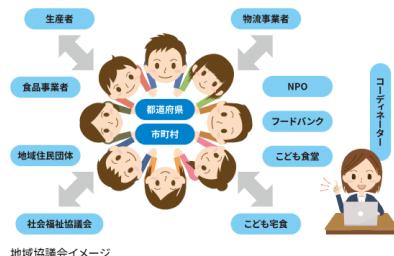
養父市社会福祉協議会では、令和6年10月1日より、農林水産省の「食品アクセス緊急対策事業」の補助を受け、買い物困難者、経済的に困窮している方への円滑な食品アクセスの確保について対策を考えています。

#### 事業の内容

近年、人口減少と高齢化の進行、公共交通サービスの縮小、地域経済の衰退などにより買い物に困難さを抱える方が増えています。  
また、経済的困難の広がりにより、日々の食事に困る世帯もあります。

養父市社会福祉協議会では、令和6年10月1日より、農林水産省の「食品アクセス緊急対策事業」の補助を受け、買い物困難者、経済的に困窮している方への円滑な食品アクセスの確保について対策を考えています。

#### 事業の内容



##### 1 協議会の設置

養父市全エリアを対象に「食品アクセス確保のための地域協議会」を設置

##### 2 関係者間の調整役の配置

上記協議会の運営に、職員1名をコーディネーターとして配置

##### 3 地域における食品アクセスの現状・課題の調査

経済的理由により食品にアクセスできない方の実情等に関する調査  
食品事業者などの食品ロス状況等に関する調査

地域協議会イメージ

## 養父市社協ホームページからリンク

### 食品アクセス確保のための地域協議会

第1回目となる「食品アクセス確保のための地域協議会」を令和7(2025)年2月21日に開催しました。

行政、地域社会、企業が連携して、地域住民のすべてが食品への安定的なアクセスを確保できる社会を実現できるよう取り組んでまいります。

#### 会長挨拶



高齢化や過疎化が進行する中、地理的要因や経済的要因で十分な食料を入手出来ない買い物困難者が増えています。  
誰もが健康で豊かな食生活が送れるよう、多様な食料の提供体制、および食品アクセス確保に関して地域の課題を調査し、取り組みを推進する体制を強固たいと考えています。

皆様に理解と関心を持っていただき、協力願いたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

食品アクセス確保のための地域協議会  
会長 岸本 計二

#### 第1回地域協議会の様子

## 住民への本事業の周知③

「やつぱー食の体験フェスタ」(青年会議所イベント)で、フードバンクについてのブースを出展



約400人が参加。啓発カードを配布  
あかはねちゃんも登場！



# 現在、進行中の活動

明延プロジェクト「小林たばこ総合会館」  
(小林たばこ屋 コミュニティスペース再生事業)



そんな明延の区長 小林史朗さんは、この状況に対して次のように語ります。

「この集落がたとえ5人になったとしても、みんなに笑っていてほしい」



高齢化率70%超 人口44人、最寄のスーパーまで車で20分の超山間小集落 明延区に食品買い物拠点を整備

## 現在、進行中の活動

明延プロジェクト「小林たばこ総合会館」  
(小林たばこ屋 コミュニティスペース再生事業)

毎週火曜日、開店（明延購買部）  
日用品、インスタント食品のほか、  
地元農家の協力で、採れ立て有機野菜を販売



高齢化率70%超 人口44人、最寄のスーパーまで車で20分の超山間小集落 明延区に食品買い物拠点を整備



## フードバンク・フードドライブ事業・企業のみなさんからの食品寄付

生活協同組合コープこうべ と協定  
(令和元年7月~)

毎月1回、注文間違いなどにより返品  
となつた食料品を提供いただいていま  
す



ファミマフードドライブ事業  
(令和6年10月~)

市内にある2店舗に家庭の食品ロス  
軽減のため寄付BOXを設置いただき  
毎月一回受け取り



キコーナ (端午のお菓子の寄付)  
(令和7年11月~)

端午 (はだま) 交換のお菓子の寄  
付を集めて、ラッピングして (!)  
届けていただいています



寄付いただいた食品は、生活困窮世帯や、子ども食堂、子育て支援NPOなどに配付しています。  
※令和6年度 延べ89件 1,624品目を提供

## フードバンク・フードドライブ事業・住民のみなさんからの食品寄付

市民のみなさまからの寄付  
(善意銀行の物品預託)

市民、関係者のみなさんから、食品や野菜、米などが、たくさん寄せられます



里芋の寄付



じゃがいもの寄付



たまねぎの寄付  
(障がい者就労支援事業所より)

寄付いただいた食品は、生活困窮世帯や、子ども食堂、子育て支援NPOなどに配付しています。  
※令和6年度 延べ89件 1,624品目を提供



かぼすの寄付

# 取り組んでよかったこと・難しかったこと・今後に向けて

- ☑ 地域協議会は関係者の関心が非常に高く、今後のさまざまな議論・展開が期待できる。

→「買い物支援には、たくさんの実験、トライ＆エラーを繰り返す必要がある」  
→「面白そうなことがおきそう」

(委員の声)

- ☑ 一人暮らし高齢者への調査は、これまで、民生委員・児童委員や市役所福祉部局への結果報告と共にとどまっていたが…

→協議会の場で、見える化できるデータとして活用  
→地域(各行政区や地域自治組織)にも返していく

「買い物難民」…これまで抽象的な捉え方  
→食品アクセスに困難さを抱える方の実際の状況を意識

自分たちでも、できることを考える



“つながり”がキーワード

- ☑ 生活福祉資金貸付では、貸付を行ったままで、その後のフォローが十分でなかった  
→調査により、現状の把握がすすんだ。  
→「養父市どうぞ便」は、食料支援と再相談のきっかけづくりに。

- ☑ 生活困窮世帯への調査では、二次元コードの活用もあり、当初の想定よりも回答数が伸びている

→しかし、半数以上は回答のない(音沙汰のない)世帯も存在する  
→金銭面では「困っている」と回答があるが、食品パック受け取りは辞退されるケースも目立つ

生活困窮者支援では、依然、状況把握や関係者間での連携・共有に難しさがある  
(同内容の調査は3割回答があれば高い方だ、とのデータも)

食品確保の先にあるウェルビーイング

# 食の安心は、地域のつながりから ～ささえあいの輪を広げながら、誰もが暮らしやすい社会へ～



フードバンクに食品を届けてくれた家族



認知症カフェ「ここあん」

毎月1回、持ち寄った野菜を使った、ボランティア手作りの美味しいランチが好評です

